

いきいき

VOL 17号
平成21年1月20日
いわき市総合教育センター

■ 第3学期がスタート

■ 今年度のまとめの第3学期が始まりました。各学校では子どもと教師が一つとなって気持ちを新たに、教育活動を推進していることと思います。今年もよろしくお願いします。

■ 今号は前号に引き続き、LD(学習障がい)やADHD等の軽度の発達障がいについて掲載しました。参考にしていただきたいと思います。

■ 講演「発達障がいの特性を生かした社会的自立」(講師:大阪教育大学 竹田契一名誉教授)より No.2

日本でLD(Learning Disabilities)について専門家が関心を向けるようになったのは1980年代になってからで、1990年代の初め頃までは、LDの中に自閉症やADHD、アスペルガー、高機能自閉症も含められていた。母親たちはそのような中で育て方を問われ、大変悩んでいた。

1992年、LD児の保護者たちによる親の会の動きが実って日本LD学会が出来た。その後、1999年にLD等に関する協力者会議が「学習障がい児に対する指導について(報告)」をまとめた。

[参考] 我が国のLDの教育定義(1999年 LD協力者会議)

LDとは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、又は推論する能力のうち特定のものの習得とその活用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

LDは、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障がいがあると推定されているが、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、情緒障がいなどの障がいや環境的な要因が直接の原因となるものではない。

LDは、脳の認知機能の弱さから、鏡文字を書くなど、読み書き等に見られる部分的な学習能力の障がいがあり、それが学習全体にも影響を及ぼしてしまうことが多々ある。

一方、ADHDには、①多動性(動き回る)、②衝動性(抑制力が低く、興奮しやすい)、③不注意(注意集中困難)の3症状があり、特に、次のような傾向が多く見られることがある。

- 1 学校の勉強・仕事・その他の活動において、細かく注意を払えないことが多く、うっかりミスが多い。
- 2 注意集中の維持が苦手(15分ぐらい)。
- 3 聞くことが苦手。
- 4 指示に従って、学業・作業等を完遂することが苦手。
- 5 課題や作業を取りまとめることが苦手。
- 6 宿題のように精神的な集中力を必要とする課題を避けがち。
- 7 外部からの刺激で容易に注意がそれてしまう。
- 8 物をよくなしがち。
- 9 物忘れが多い。



次回はADHDの子の実態に関して紹介、適切な関わり方を考えていきたいと思っています。

また、皆様方から「いきいき」についての、ご意見、要望等がありましたら、市総合教育センターまでお問い合わせ頂ければ幸いです。